

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	鏡地域福祉センター管理運営事業			会計区分	01 一般会計				
				款項目コード(款-項-目)	3	—	1	—	3
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	1	誰もがいきいきと暮らすまち	事業コード(大-中-小)	1	—	34	—	12
	施策の大綱(節)【政策】	3	健やかに暮らせるまちづくり	総合戦略での 位置づけ	基本目標				
	施策の展開(項)【施策】	4	高齢者の支援		施策大項目				
	具体的な施策と内容	2	高齢者の生きがいづくり、社会参加等の支援		施策小項目				
事務事業の概要 (全体事業の内容)	高齢者及び地域住民の保健福祉活動の拠点として、心身の健康保持及び一人暮らし高齢者の集いや幼児との交流会、男性料理教室の開催及びデイサービス等を実施することにより、健康づくりの場を提供し福祉の向上を図っていく。当施設は開館して40年以上経過し、建物及び設備の老朽化が著しいため、建物及び設備の点検や補修・改修を行い、施設の維持管理に努める。								
実施手法 (該当欄を選択)	☐ 全部直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☒ その他(指定管理者制度導入:八代市社会福祉協議会)								
補助金事業該当	☐ 補助金(主な補助先:)※予算の全てが補助金支出である場合に記入。								
根拠法令、要綱等	八代市鏡地域福祉センター条例、八代市鏡老人デイサービスセンター条例								
事業期間	開始年度	終了年度			法令による実施義務 (該当欄を選択)	☐ 1 義務である ☒ 2 義務ではない			
	合併前	未定							

2 (Do) 事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対 象 (誰・何を)	地域住民、要介護高齢者、要支援高齢者等							
事業内容(手段、方法等)	成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)							
鏡地域福祉センター管理運営事業を八代市社会福祉協議会に平成27年度から平成29年度まで委託し、地域の高齢者に対して、各種の相談に応ずるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーション等のための事業並びに必要な便宜を提供する。	地域福祉の拠点として、地域の高齢者に対して各種事業を実施することにより、高齢者の健康で明るい生活に寄与する。併せて、施設を快適に利用してもらうために、建物や施設設備の定期的な点検や補修、修繕を行う。							
コスト推移	26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度予算	30年度見込	31年度見込	32年度見込	
事業費(直接経費) (単位:千円)	5	3,227	2,393	1,775	1,763	1,763	1,763	
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他特定財源(特別会計→繰入金)		10	10	10	10	10	
	一般財源(特別会計→事業収入)	5	3,217	2,383	1,765	1,753	1,753	1,753

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	八代市鏡地域福祉センター開館日数	日	計画	-	292	292	291	292	291
				実績	290	292	292	291	291	-
	②	八代市鏡老人デイサービス実施日数	日	計画	-	307	305	307	307	307
				実績	305	307	305	307	307	-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										
もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	① 八代市鏡地域福祉センター来館者数	来館者が多いほど、地域住民の福祉の向上と健康保持増進に寄与していると考えられるため。	人	計画	-	9500	9550	9600	9650	9700
				実績	9483	9844	9752	10061	9690	-
	② 八代市鏡老人デイサービスセンター利用者数	介護保険法による通所介護事業の利用者数が多いほど、高齢者福祉の向上と健康保持増進に貢献していると考えられるため。	人	計画	-	5300	5300	5300	5300	5300
				実績	5379	5471	4849	4148	3480	-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	妥当である ● 概ね妥当である 妥当でない	福祉センターにおいては高齢者の趣味講座が多分野にわたって行われ、福祉団体等の会合も毎日のように開催されている。施設は多くの市民に利用されており、地域福祉の拠点として活用されている。 通所介護事業については、民間による事業展開が進んでいることから、今後、民間への移譲等を含めて検討する必要がある。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	有効である ● 概ね有効である 有効でない	福祉センター施設は、活動内容も地域福祉の拠点として、有効なものとなっている。また、利用者数も計画値を超えており、施設の利用度は高い。今後も事業の内容の充実や周知により利用者等を増やすことは可能と思われる。 通所介護施設においては、高齢者の福祉の向上と健康保持増進に寄与しているものの、通所介護事業への民間参入も著しいことから、施設の維持補修や更新と併せて、事業の見直しを検討していく必要がある。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	現行どおりでよい ● 見直しが必要	鏡地域福祉センターと老人デイサービスセンターは一体となった施設であり、平成18年度から指定管理制度を導入している。福祉センターにおいては、鏡地域の福祉活動の拠点であり、福祉団体が連携した活動を展開する場として施設が果たす役割が大きい。しかし、施設の老朽化が進んでおり、今後は大規模な修繕等が予想され、施設のあり方を検討する必要がある。 通所介護事業においても、施設の老朽化も進んでおり、本事業への民間参入の状況等を考慮し、事業継続の是非等も含め検討する必要がある。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) ● 4 市による実施(要改善) 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 施設は開館から40年以上経過し、改築を重ねてきているが、建物本体および設備の老朽化が進んでおり、今後も維持管理に多大な経費を要することが予想される。福祉センターは、高齢者や民生児童委員、子育て支援等の福祉団体の集会の開催や高齢者の憩いの場として利用されており、地域住民の福祉の向上、健康増進のために寄与する拠点施設であることから、今後の施設のより効率的なあり方を検討していく必要がある。また、通所介護事業においては、介護保険法の改正などを鑑みながら、通所介護事業の収支や民間参入の状況などを考慮し、事業実施の是非を含め早急に見直す必要がある。	
外部評価の実施		無	実施年度
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		特になし (委員からの意見等)	